NIE実践報告

1．タイトル：他教科との連携を目指した高校家庭科「生活教養」における新聞活用

2．学校名

北海道洞爺高等学校

3．実践者名（代表者名）

狩野千賀子

4．学年

3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

家庭科（学校設定科目「生活教養」）・9名

6．単元（本時の学習課題）名

社会問題に関するポスター発表会

7．目標(狙い)

社会人として求められる教養とマナーを身に付け、良好な人間関係構築のための発表力を育てることを目標とした。特に本実践では、中でも社会人に求められる能力として「情報リテラシー」の育成にも注目した。

8．評価の視点

・関心の高い記事を新聞から集め、ポスター発表を通じて自分たちの考えを相手に伝えることができたか。
・教員（多教科）からの発表に対する評価をもとに、自己省察を深めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞を読む」[生活教養：3時間]
「ポスター発表」[生活教養：9時間]　　合計12時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①一定の期間の新聞から、興味関心のある新聞記事を収集する。（3時間）
②各々が収集した新聞記事を持ち寄り、記事の内容からグループ化する。（0.5時間）
③発表題材4つを選択する。（0.5時間）
④ポスター発表のための調べ学習・資料作成を行う。（6時間）
⑤各グループ10分程度でポスター発表、質疑応答を行う。（1時間）
⑥発表時のやり取り、教員からの評価票をもとに、発表内容について振り返りを行う（１時間）

(留意点)
・新聞から自分の興味関心を探し出し、クラスメートとの交流から共通点を見出すことができるようアドバイスをする。
・ポスターは見やすく、簡潔にまとめるよう指導する。
・自分たちの意見と他者の意見を客観的に比較し、振り返りをすることができるような資料を提供する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

記事収集から発表まで、生徒同士積極的な意見交流が行われていた。特に振り返りの中では、一つの題材であってもいろいろな見方ができること（人によって様々な解釈があるということ）を認識することができた様子であった。

12．成果と課題

これまでは資料をまとめ、意見発表をすることに評価の中心を置いていたが、本実践では発表の振り返りの中からの学びを重視し、自分一人では気づかない問題のとらえ方や考え方があることに気付かせることができた。一方で、「生活教養」で実施した秘書検定の学習や茶道体験学習に比べ、本実践は生徒たちにとって印象の薄いものであった。生徒の一人は「完成度の低さが原因ではなかったか」という振り返りをしていた。ポスター作製や質疑応答など、具体的な指導について他教科との連携を深めることにより、完成度の高い授業を展開できるように今後も工夫を重ねていきたい。